

JR産業の緊急政策課題解決に向け 「決起集会」を開催！ 署名集約 22万3,525筆 組合員の熱い思いを届ける！

JR四国労組は、11月25日(水)に開催された「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム第16回総会」及び「JR産業に関する緊急政策課題の解決に向けた決起集会」に参加した。決起集会では、国土交通省上原鉄道局長、交運労協住野議長、JR7社の経営幹部を来賓として招き、JR産業の持続的発展と働く仲間の生活と雇用を守るために、政労使が力を結集する決意を固め合った。



大谷委員長から榎葉会長に署名用紙を手交

冒頭、フォーラムを代表して挨拶に立った榎葉会長は「今次集会はまさに政労使が一堂に会した画期的な場である。極めて厳しい局

面立たされているJR産業が明るい将来を切り拓けるよう、政労使が力を合わせて取り組んでいこう！」と力強く挨拶した。続いてJR連合萩山会長は、「コロナ禍においても指定公共機関として安全輸送の確保に尽力している点や、組合員と家族の積極的な協力で22

万筆超の要望実現を求める署名を集約した点に謝意を述べた上で、署名に記された①雇用助成金の延長、②公租公課の減免・猶予、③JR北海道、JR四国、JR貨物への当面の支援とともに経営自立に向けた道筋の明確化の3点を改めて参加者全員に提起した。

来賓挨拶では、上原局長よりJRをはじめとする鉄道事業全般が直面する厳しい現状に触れた上で、「今般の状況に鑑み、所要の支援が図られるよう、鉄道局として精一杯取り組む」と決意の一端が示された。また、JR7社を代表し、今年度税制改正の幹事会社であるJR四国岡田取締役財務部長より、JR連合及び加盟各単組による企業運営を支える各種取り組みに対して謝意が示されるとともに、会社側としても労使連携を図りながら新しい時代を見据えて対応していく旨の意思表明がされた。

その後、JR四国労組を代表して大谷執行委員長が、要求実現への想いを込めた口上とともに榎葉会長に署名用紙が手交され、さらには職場の声を届けるべく、JR二島・貨物労組を代表して森安副執行委員長から現場組

合員の熱い思いを訴えられた。そして、本集会后もJR連合と連携しながら、政策課題解決に向けて引き続き取り組んでいく。

「冒頭、榎葉会長からは「JR各社はコロナ禍により大変な状況に陥っており、社会や経済を支えるために必要なJRを始める」という公共交通を支えていくための「財政的な対応が不可欠」と支援の重要性を訴えた。JR連合の萩山会長からは「新型コロナウイルス感染症の再拡大により、3兆円もの減収を見込んだ通期

の想いを込めた口上とともに榎葉会長に署名用紙が手交され、さらには職場の声を届けるべく、JR二島・貨物労組を代表して森安副執行委員長から現場組

への要請行動を行い、

「JR産業に関する緊急政策課題の解決を求める署名」に全組合員が総力を挙げて取り組んだ結果、最終集約でJR四国労組の目標を大きく上回る35,355筆を集約することができました。コロナ禍により署名活動の展開が難しいなか、積極的に取り組んでいただいた各級機関の役員をはじめ、組合員の皆さんに御礼申し上げます。今回ご協力いただいた

署名活動の取り組みに感謝

目標を大きく上回る 35,355筆を集約

だいた署名は、コロナ禍におけるJR各社への支援や、JR四国の将来の経営自立に向けた道筋の明確化をはじめとする各種要望事項の実現に向け、JR連合とともに国土交通省をはじめとする関係省庁への要請行動において提出しました。

今後、政策課題解決に向けた取り組みに全力で取り組んで参ります。



森安副委員長が働く者の声を届ける

JR連合とともに 関係省庁への要請行動を展開！

11月30日(月)、JR連合は、JR連合国会議員懇談会の榎葉会長、岸本幹事、広田幹事とともに、財務省の伊藤副大臣への要請行動を行った。

「JR産業に関する緊急政策課題の解決を求める署名」に基づいた要請行動として、①JR産業の雇用をまもるための雇用調整助成金の延長、②固定資産税の課税の軽減措置の延長、③JR北海道、JR四国、JR貨物の経営自立に向けた支援実施を求めた。

「冒頭、榎葉会長からは「JR各社はコロナ禍により大変な状況に陥っており、社会や経済を支えるために必要なJRを始める」という公共交通を支えていくための「財政的な対応が不可欠」と支援の重要性を訴えた。JR連合の萩山会長からは「新型コロナウイルス感染症の再拡大により、3兆円もの減収を見込んだ通期

決起集会の様子は動画配信中！



これは「これに対し赤羽大臣は「コロナ禍の中不安を抱えながら公共交通を支えていく、エッセンシャルワーカーであるJR関係労働者の皆様に感謝申し上げる。関係労働者の皆様に資金繰り支援などについては、要望いただいた納税猶予などについては、引き続き取り組んでいく。JR二島・貨物の課題もあり、私も現地で実際に乗車しながら、支援にむけても検討を進めていく。新幹線ネットワークは地方創生や防災・減災対策としても重要な」と述べた。

年末手当交渉妥結！

過去最低水準の業績のなか 組合員の熱い思いを訴え回答を引き出す

【JR四国】
「1・39カ月分」を確保

JR四国との年末手当交渉は、10月30日の1回目の交渉を皮切りに、2回目の交渉を11月12日に、3回目の交渉を11月20日に行つた。3回にわたる交渉において、組合は、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを背負いながらも、「安全・安定輸送」を第一義に収入の確保に奮闘する組合員の努力に報いるため粘り強く交渉を行つてきた。

これに対し会社側は、これまでの「安全・安

定輸送」をはじめとする取り組みは十分認識しているが、コロナ禍の影響による減収幅が非常に大きくなり、さらに行きが見通せないことから、現実を受け止めて慎重に検討せざるを得ないと厳しいスタンスであった。

組合は、期末手当は生活給の一部であり、コロナ禍による厳しい経営状況は理解しつつも、期末手当に対する組合員の期待感は大い

その結果、会社側から1・39カ月分の回答を引き出した。交渉終了後、持ち帰り業務対策委員会を開催し、「会社を取り巻く経営環境はこれまでない危機的状況であり、コロナ禍の収束が見通せないなか、責任組合として会社の存続と雇用の維持が重要なことを十分理解し交渉に臨んできたこと」を「今回引き出した回答は、各職場において新型コロナウイルス感染症のリスクを背負いながらも「安全・安定輸送」を第一義に奮闘する組

求め交渉を展開してきた。その結果、会社側から1・39カ月分の回答を引き出した。交渉終了後、持ち帰り業務対策委員会を開催し、「会社を取り巻く経営環境はこれまでない危機的状況であり、コロナ禍の収束が見通せないなか、責任組合として会社の存続と雇用の維持が重要なことを十分理解し交渉に臨んできたこと」を「今回引き出した回答は、各職場において新型コロナウイルス感染症のリスクを背負いながらも「安全・安定輸送」を第一義に奮闘する組

合員の労苦を最大限評価した支給月数であること」を「中間決算で明らかになった会社の業績は過去最低の水準となり、今後も先行きが不安定な状況にあること」を議論し、引き続き組合員一丸となって安全の確保を大前提に、収入の確保にも積極的に取り組むことを確認するとともに、現時点において会社としての判断し、11月20日12時に妥結した。

(詳しくは、JR四国労組ニュースNo.6、8、9を参照)

第5回本部執行委員会開催

12月5日(土)16時15分より「第5回本部執行委員会」が開催された。

経過報告と議事については次のとおり。

【経過報告】
・組織の強化・拡大(経営協議会)
・中間決算(JR四国・ジェイアール四国バス)
・団体交渉
・2020年度の年末手当・年末賞与(JR四国・ジェイアール四国バス)

【政策】
・JR産業に関する緊急政策課題の解決を求める署名の集約結果について
・(共闘)四国交通労協定期総会
・(レク)第30回ゴルフ大会(JR連合)
・産業政策委員会グループエリア連合代表者会議
・労働政策委員会21世紀の鉄道を考える議員フォーラム総会

【議事】
① 2020年度の年末手当・年末賞与の妥結承認について
② ダイヤ改正実施に伴う経営協議会の付議事項について
③ 特別功労者表彰について
④ JR四国労組「新春セミナー」の開催について

⑤ JR四国労組「第34回定期本部委員会」の開催について
・招集について
・特別本部委員、係の取り扱いについて
・活動方針骨子(案)について
⑥ 当面するスケジュールについて
⑦ その他

【議事】
⑧ JR連合第33回中央委員会の開催について
⑨ 分会大会の開催日程について
⑩ 次期(第6回)執行委員会の開催について
⑪ その他

【ジェイアール四国バス】
年末賞与は支給困難も
「特別一時金」支給の回答を引き出す

ジェイアール四国バスとの年末賞与交渉は、11月27日の2回目の交渉を行った。今回の交渉は、取り巻く状況がこれまでとは大きく異なる厳しい状況を示さず、要求月数を踏まえて議論を行った。組合は、日夜「安全・安心運行」に懸命に取り組んでおり、組合員の非常に強い期待感に報いるべく年末賞与支給に向けて交渉を展開してきた。

これに対し会社側は、収入動向や資金繰り状況を含めて経営状況を非常に厳しく年末賞与支給につ

バスとの年末賞与交渉は、11月27日の2回目の交渉を行った。今回の交渉は、取り巻く状況がこれまでとは大きく異なる厳しい状況を示さず、要求月数を踏まえて議論を行った。組合は、日夜「安全・安心運行」に懸命に取り組んでおり、組合員の非常に強い期待感に報いるべく年末賞与支給に向けて交渉を展開してきた。

これに対し会社側は、収入動向や資金繰り状況を含めて経営状況を非常に厳しく年末賞与支給につ

バスとの年末賞与交渉は、11月27日の2回目の交渉を行った。今回の交渉は、取り巻く状況がこれまでとは大きく異なる厳しい状況を示さず、要求月数を踏まえて議論を行った。組合は、日夜「安全・安心運行」に懸命に取り組んでおり、組合員の非常に強い期待感に報いるべく年末賞与支給に向けて交渉を展開してきた。

これに対し会社側は、収入動向や資金繰り状況を含めて経営状況を非常に厳しく年末賞与支給につ

「分会大会」順次開催!!

各支部では、定期大会の終了を受け、順次分会大会が開催されています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、書面議決による形式を採用する分会もありました。

JR四国労組には40の分会があります。12月10日時点で37の分会で大会が終了しました。各分会大会では、分会執行部から一般経過報告、決算報告、会計監査報告が行われた後、2020年度活動方針(案)と予算(案)が提起され、各職場から集まった代議員



から質疑が行われました。質疑では、「安全・安定・安心輸送の確立」「新型コロナウイルス対応」「組織の強化・拡大」「職場環境の改善」「政策課題解決」「政治・共闘」等を中心に意見が出され、執行部からの答弁の後、全体の拍手により採択されました。最後に分会長による団結ガンパローで締めくくり、終了しました。

分会は組合運動の原点です。組合員同士のコミュニケーションを図り、より良い職場づくりに取り組みむよう世話役活動のさらなる充実を要請します。

「第34回定期本部委員会」の開催について

- 1 日時 2021年2月5日(金) 13時より17時まで
- 2 場所 「ホテルアネシス瀬戸大橋」
- 3 議題 (1)定期大会以降の経過について
(2)2021春季生活闘争方針をはじめとする当面の活動方針(案)
(3)その他

「2021新春セミナー」の開催について

- 1 日時 2021年2月5日(金) 10:40~12:10(予定)
 - 2 場所 「ホテルアネシス瀬戸大橋」
 - 3 対象者 第34回定期本部委員会出席者
- 詳しくは、JR四国労組発第62号を参照。

